

Caduceus Information

カデューシャス通信

Vol.40
(2026年5月号)



(photo 安平町にて 脳神経外科医 吉野雅美)



シンボルマークについて

当院のシンボルマークは、平和と医術の象徴であるカデューシャス (Caduceus) のつえを頭蓋骨穿孔器 (ずがいこつせんこうき) に置きかえ、ヘビの顔は世界を知る意味で外へ向けています。翼の下にある **脳** は脳神経外科 (Neurosurgery) のことを意味しております。

- ・ パーキンソン病研究センターについて
- ・ 頭痛外来開始にあたって
- ・ 神経機能検査について
- ・ 看護部紹介
- ・ 外来診療体制

パーキンソン病 研究センターについて

脳神経内科部長・パーキンソン病研究センター長 **新保 和賢**

パーキンソン病研究センターは、昨年ご逝去された緒方昭彦副院長により2015年4月に設立されました。パーキンソン病は脳神経内科で担当する疾患では認知症に次いで2番目に多く、その数は高齢化とともに増加の一途を辿っております。正確な早期診断と患者さまに最も適した治療を提供することがますます重要となっています。当院でも約300名のパーキンソン病患者さまが通院されており、看護師、リハビリ、放射線、臨床検査技師、ソーシャルワーカーなど、多職種スタッフが、まさに総力あげて診断、治療にあたっております。この度その能力向上と新たな知見獲得を目的として、当センターを引きつぎ、継続させていただくことになりました。診断については、MRI、エコー、生化学的手法を駆使した新たな診断技術の開発が進んでおります。また治療法に関しては新薬の開発が続いており、さらにDAT(機器を用いた治療法)、iPS細胞移植など新規治療法が今後選択肢に加わると思われる、当センターでの研究がますます重要になると考えております。



頭痛外来開始にあたって

脳神経外科 池田 潤

今年4月から頭痛に対する専門外来を担当することになりました池田です。

頭痛は誰にでも起こる身近な症状ですが、「いつものことだから」と受診をためらったり、市販薬で「辛いけど我慢している」方も多いのではないのでしょうか？

頭痛の中には日常生活に支障をきたす辛い状況や、くも膜下出血など命に関わる病気が隠れている場合もあります。一方で、片頭痛や緊張型頭痛など、適切な治療によって症状を和らげたり、頭痛の回数を減らしたりできる頭痛もあります。

頭痛外来では、予約制の専門外来として時間をしっかり確保し、まず安心していただけるように丁寧にお話を伺い、必要に応じて検査を行いながら原因を見極めていきます。そのうえで、お一人おひとりの頭痛のタイプに合わせた治療や日常生活での工夫も含めてサポートしていきます。

当院ではこれまで週1回、火曜日午前に吉本医師による頭痛外来を行ってきましたが、より多くの方に受診していただけるよう木曜日午後に池田が担当する週2回の外来へと拡充しました。

頭痛の回数や痛みを減らすことで「少しでも楽に過ごせたら」と感じている方は、お一人で悩まずお気軽に頭痛外来へご相談ください。



神経機能検査について

臨床検査科 技師長 植木 幹彦

脳神経外科や脳神経内科の診断や治療効果の判定のために様々な検査を行います。

MRIやCT検査では特殊な方法で撮影を行い病変の大きさ・形・場所を詳細に調べる事ができます。これらの検査は形態を見る検査となります。

一方で、MRIやCT検査では詳細な脳・神経の機能を調べる事ができないため、誘発電位という検査を行います。

誘発電位検査とは脳や神経を機械的(電気、音、光など)に刺激することで反応する(誘発される)電気活動(電位)を記録する検査です。刺激から反応が得られるまでの時間や反応強度を計測することで神経機能を判断することができます。

体性感覚誘発電位(感覚神経)、運動誘発電位(運動神経)、視覚誘発電位(視神経)、聴性脳幹反応(聴神経)、神経伝導検査(末梢神経)などの種類があり幅広い脳神経系の疾患に対応できる検査となっています。

また応用として、手術中に同様の検査を行い術後後遺症を防止もしくは低減する目的で検査を行っています。(術中神経モニタリング)



看護部紹介

副看護部長 渡辺 亜紀子



2026年1月から副看護部長を務めさせていただいております渡辺亜紀子です。

看護部は【患者さま第一】という理念のもと、看護師として、優しさと思いやりを持って日々の看護を提供しております。

近年、今まで以上に地域とのつながりの重要性を感じております。退院後の生活を見据え、地域の医療・福祉機関と協働しながら支援をつなぐことは、看護の延長であり、私たち看護師が果たすべき大切な役割になっております。患者さまが住み慣れた地域・環境で安心して暮らし続けられるよう、看護の専門性を生かし、多職種と力を合わせたチーム医療をより強化していきたいと思っております。

また、看護を取り巻く環境は、変化が激しく先を見通しにくい状況が続いております。社会全体が「VUCA(ブーカ)の時代」と言われる予測困難な時代を迎える中、医療現場も例外ではありません。このような中で、安全で質の高い看護を提供するためには、看護の現場で働く一人ひとりが力を発揮できる環境づくりが欠かせません。看護部全体、ひいては病院全体が、これからも共に成長できる組織でありたいと強く思っております。

これからも、患者さまやご家族に「来て良かった」と思っただけけるよう、尽力してまいります。

副看護部長 齋藤 由香



4月より副看護部長を務めさせていただくことになりました、齋藤由香と申します。

今まで急性期病棟師長、教育担当師長、皮膚・排泄ケア認定看護師として現場と教育の場に携わらせていただき、コロナ禍では現場で大きな過渡期を経験しました。

当院は脳神経外科、脳神経内科の専門病院として地域医療の大きな役割を担っております。超高齢化時代の中で求められる看護師の役割の重要性を日々強く感じております。

地域の方々に選ばれる病院を目指して、看護師一人ひとりが専門職としての誇りを持ちながら楽しく働ける環境づくりを目指していきたいと考えております。そしてこれからは、病院の医療の質を上げるために多職種との連携は欠かせません。チーム医療が充実していなければ患者さまに満足していただける医療は提供できない中で、当院の強みの一つは多職種との連携の強さだと思っています。さらにこの強みを生かしていけるように多職種との架け橋となれるよう微力ながら務めていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

4階病棟 師長 内田 晶子

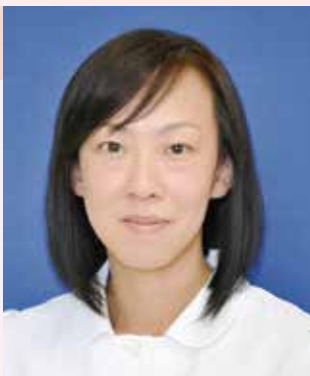


4階病棟は、主にパーキンソン病や脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症(ALS)などの神経難病に罹患されている方や、重度の意識障害や脊髄損傷などの重度肢体不自由の方が入院対象となる、31床の障害者病棟(障害者施設等一般病棟)です。

患者さまの多くは、筋力低下、手足の痺れや震え、麻痺、ふらつき、嚥下・言語障害など、からだの動きが不自由になる場合が多く、残存機能を生かした日常生活援助が必要となります。患者さまご自身が症状を受け入れながらも、できない事ばかりではなく、できている事にも目を向けながら治療に専念することができるよう、心と身体の看護をさせていただきます。

また、一般病棟とは違い、障害者病棟は長期間にわたり集中的な医療が必要となりますが、医師や看護師だけではなく、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカーなどと連携を図り、患者さまと共に心をつなぐ一日でも早く退院できるよう努めて参ります。

副師長 伊藤 麻恵



これまで看護師として病棟で患者さまのケアに携わってきましたが、2年前から医療安全管理者として、患者さまが安全に治療や療養を受けられる環境づくりに取り組んでいます。日々の医療の中で起きた出来事を振り返り、その原因を分析して再発防止につなげるとともに、医療事故を未然に防ぐための仕組みづくりや、職員への研修、業務の見直しを行っています。また、医師・看護師・薬剤師など多職種と連携しながら、病院全体で安全性を高める取り組みを進めています。さらに、リスクの早期把握やより安全な医療の提供につながるよう、地域の医療機関とも医療安全に関する情報共有を行っています。

外来 主任 小原 由果



外来では、急な体調の変化への対応からご自宅での療養まで、切れ目のない看護を提供しています。来院される患者さまやご家族は、突然の症状に戸惑いや不安を抱えていることが少なくありません。私たち外来看護師は、一人ひとりの思いに寄り添いながら、優しい声かけと丁寧で分かりやすい説明を大切にしています。また、受診の時だけでなく、その後の生活も安心して過ごしていただけるよう、一人ひとりに合わせた支援を心がけています。これからの外来看護は、病院の中だけで完結するのではなく、さまざまな職種と連携しながら、地域へとつなげていく役割がますます大切になります。外来看護師は、医療処置や看護の実践に加えて、患者さまの生活にも目を向け、その方の生き方や価値観、仕事などの背景も大切にしながら、安心してご自宅での療養を続けられるよう支援しています。スタッフ同士が協力し合い、温かい雰囲気の中で、患者さまやご家族にとって安心して通える外来であり続けられるよう努めてまいります。

外来診療体制

外来担当医表

	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT					
	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	
午前	脳神経外科	会青 田 今吉 樹 新西 村	会小 田 池柳 (頭痛外来)※予約制	吉野 小柳 阿部	会田 今村 吉本 中興 (第3のみ)	会田 青千 嶋 千鴨	今村 青東 海 新赤 林	今村 青東 海 新赤 林	今村 青東 海 新赤 林	今村 青東 海 新赤 林	今村 青東 海 新赤 林
	脳神経内科	新西 村	興相 水 相馬 井	興赤 水 赤井 井	中興 水 村馬 (第3のみ)	新赤 保 赤池 井	西村 水	興水 水	興水 水	相馬 水	東海林 交代制
	心血管外科		石井	石井		石井					休診
	循環器内科				野村						休診
午後	脳神経外科	鴨嶋 青樹 阿部 崎	小柳 吉野 千葉	千池 葉 嶋田 鴨 (顔面けいれん・ 三叉神経痛外来) ※予約制	吉野 阿部 池田 (頭痛外来のみ予約制)	今村 (14:00~16:00) 吉野 鴨嶋					休診
	脳神経内科	新保	相馬 西村	大槻 新保	中村 西村 (第3のみ) 相馬 (新患のみ)	新保 赤池					休診
	心血管外科	石井									休診
	循環器内科				野村	野村					休診

受付・診療時間

◆ 午前の診療(平日・土曜日)

受付は、8時40分から11時30分まで
診察は、9時より行います

◆ 午後の診療

受付は、11時30分から16時30分まで
診察は、14時より行います

- ①お電話での予約の申込みや変更は、受診希望日の前日までに下記電話番号へご連絡ください。
TEL:011-717-2131 月曜日～金曜日(9時～16時)
- ②当院の予約は、来院時間を調整するものであり、必ずその予約時間に診察をお約束するものではありません。何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。
- ③予約をされていない場合でも、診察させていただきます。
- ④患者様の症状等によって診察の順番が前後したり、急患の対応等で診療開始時間が遅れることがありますのでご了承下さい。
- ⑤診療医師が不在の時は、他の医師が診察させていただきます。不在日は受付前の掲示板にてご確認ください。このほか、緊急手術等によりやむを得ず診療医師が変更する場合があります。ご理解とご協力をお願いいたします。
- ⑥当院は24時間救急対応をいたしております。
急に具合が悪くなったときは、夜間・休日問わず電話連絡の上、いつでもご来院下さい。
TEL:011-717-2131

歯科

院内歯科では、外来はもとより 入院中の患者様の治療も 行っています。

診療時間	月・水・金	9:30~13:30	15:00~18:00
	火・木	9:30~13:30	15:00~19:00
	土	9:30~13:00	

休診日 第2・第4土曜日、日曜日・祝祭日

歯科直通
TEL&FAX

ナイナ イムシバ
(011)717-1648

理念

1. 患者様第一を旨とし、患者様とご家族に安心と満足を提供致します。

基本方針

1. 分かりやすい医療情報を提供致します。
2. 病々・病診連携を推進致します。
3. 根拠に基づいた最新の医療を提供致します。
4. 24時間365日に救急医療体制を提供致します。
5. 健全な病院経営と効率化に努力致します。
6. 安全な医療を提供出来るよう職員の安全教育に努めます。

患者様の権利

私たちは患者様の権利を尊重します

1. 患者様の意志および人権は守られます。
2. 患者様は十分に納得出来るまで説明を受けることが出来ます。
3. 患者様は治療方法を選択することが出来ます。
4. 患者様は平等で適切な医療を受けることが出来ます。
5. 患者様の医療上の個人情報を守られます。
6. 検査、治療にあたっては、他の医療機関での説明を得る事(セカンドオピニオン)が出来ます。

Caduceus Information

私たち 北海道脳神経外科記念病院は、

脳・脊髄・末梢神経の疾患を

急性期からリハビリテーションまで

総合的に診る病院です。



交通アクセス

- ① 地下鉄南北線「北24条」駅から
中央バス 北72「南新川」下車
- ② 地下鉄東西線「二十四軒」駅から
JRバス 軒32「八軒8条東4丁目」下車
- ③ 地下鉄南北線「さっぽろ」駅13番出口を出て右、
西武デパート跡地南側から中央バス 西71「南新川」または 西51「武蔵女子学園」下車

医療法人社団 研仁会 北海道脳神経外科記念病院

〒063-0869 札幌市西区八軒9条東5丁目1-20 TEL.011-717-2131 <https://www.hnsmhp.or.jp>